

# 映画同好会 キネマ月報



2020年12月号（第3号）

今月のエッセー（1）「将棋と映画」	鈴木謙一	P2
今月のエッセー（2）「映画と私」	小林恒夫	P3
映画情報	【話題の封切り映画 2020年12月】	P4
	【NHK-BSP シネマ放映予定 12月分推薦作品】	P5-8
	【名画座 12月上映作品】	P9-10
映画同好会予定表		P11
編集後記に代えて	「映画から歴史を学ぶー中国近現代史」	
	石毛謙一	P11-18

## 今月のエッセー (1)

### 将棋と映画

鈴木謙一

私は DF 将棋同好会にも所属しているので、今回は将棋を題材とした映画をご紹介します。

阪田三吉を主人公とした「王将」(北條秀司原作)は村田英雄の歌と共に、誰でも知っている元祖的作品だが、近年の作品としては、「聖(さとし)の青春」(2016 大崎善生原作小説)、「3月のライオン・前後編」(2017 羽海野チカ原作アニメ)、「泣き虫しよったんの奇跡」(2018 瀬川晶司原作自伝)が挙げられる。「盤上の向日葵(ひまわり)」(2019 柚木裕子原作小説)もNHKでドラマ化された。この中で最も印象深かった映画は「聖の青春」である。原作も名作だが、映画も負けない出来栄えだと感じた。これは名人戦リーグA級在位のまま29歳で夭折した天才棋士、村山聖九段の半生を描いたものであり、彼は先天性の腎臓病との壮絶な闘病にも拘らず、棋士養成機関、奨励会を3年未満で突破してプロ入り、9年でA級に昇格した「東の羽生、西の村山」と並び称される羽生永世7冠のライバルであった。短い人生を懸命に精一杯生きた村山の裸の人間像を、哀切を込めて描いている。又、弟子の村山を我が子の様に親身の世話をする師匠、森信雄七段の師弟愛も感動的であった。「泣き虫しよったん」は村山とは対照的に、奨励会を年齢制限により退会せざるを得なかった瀬川六段が、社会人になるもプロ棋士の夢を捨て切れず、遂に超難関のプロ入り編入試験をパスして棋士になる自伝の映画化である。私は瀬川六段に指導対局で教えて頂いた時、苦勞人らしく人柄の良さが滲み出ている方だった印象が残っている。「盤上の向日葵」は成功者が出自を暴露される事を恐れて殺人を犯すストーリーで、松本清張の「砂の器」を連想した。

尚、先崎学九段著「うつ病九段」が近々NHKでドラマ化される予定で、楽しみにしている。ある日突然鬱病を発症した現役トップ棋士が、自らの闘病生活を赤裸々に告白していて、改めて鬱病の怖さを認識させられた。鬱病の最中(2017年12月)、米長邦雄門下の親しい弟弟子である中村太地七段の王座就位式パーティーに出席したものの、心ここに在らず、新王座への挨拶も忘れる程だったと原作にあるが、偶々私もそのパーティーに出席しており、先崎九段に話し掛けたが、虚な表情に驚いた覚えがあり、後日この本を読んで納得した次第。

## 今月のエッセー (2)

### 映画と私

小林 恒夫

「バンビ」天然色の何ときれいな画像！に驚嘆したのが、このデイズニー映画だった。確か学校推薦で、観に行ったような気がする。

観たいと意識し、自らの好奇心のままに、恐る恐る観に行ったのが、セシル・オーブリー、ピエール・ブラスールのコンビで作られたフランス映画「青ひげ」だ。

セシル・オーブリー扮する青ひげの新妻が下着を脱ぐ影絵のようなシーンを盗み見る青ひげの視線？このシーンを未だにほのかに思い出すところを見ると、質実剛健を絵にかいたような男子校の真面目な？学生にとっては、かなりの冒険だったような気がする。

インターネットで、「青ひげ」について調べてみたが、初めて出てくるのは、2009年にシャルル・ペローの「童話」を映画化したカトリーヌ・プレイヤ監督、ローラ・クレントン、ドミニク・トマのコンビによるもので、残念ながらお目当ての映画は見当たらず。

「セシル・オーブリー、青ひげ」で再検索してやっと出てきたのが、目指す作品だった。

1951年製作、クリスチャン＝ジャック監督による作品で、日本公開は、1953年となっているので、おそらく高校時代の忘れ得ぬ一コマだったのだろう。

当時のこの映画のパンフレットが、アマゾンのオークションに出ているようなので、アプローチしてみようかなと思っています。



# 映画情報

【話題の封切り映画 12 月度】（推薦者、敬称略）

①「ヒトラーに盗られたうさぎ」（真木）11/27～ シネスイッチ銀座、他  
ナチスから逃れるため、イギリスに亡命した絵本作家の自伝的作品

②「サイレント・トーキョー」（横山）12/4～ TOHO シネマ系列にて  
クリスマスイヴの東京で巻き起こる予測不能のサスペンス・エンターテインメント。クリスマスで賑わう渋谷を舞台に、波多野貴文監督、佐藤浩市、西島秀俊といった今、旬を迎えた俳優による超大作。

③「この世界に残されて」（小西）12/8～ シネスイッチ銀座、他  
監督：バルナバーシュ・トート  
88 分の短いマイナーな映画ですが、ハンガリーアカデミー賞受賞作品・アメリカアカデミー賞国際長編映画賞のショートリスト選出作品。  
“ナチスドイツにより約 56 万人ものユダヤ人が虐殺されたと言われるハンガリーを舞台に、ホロコーストで心に深い傷を負った孤独な男女が年齢差を超えて痛みを分かち合い、互いに寄り添いながら希望を見いだしていく姿を描いたハンガリー映画。

④「ニューヨーク 親切的なロシア料理店」（菅原）12/11～ 恵比寿ガーデンシネマ、他  
デンマーク出身の女性監督ロネ・シェルフイグがニューヨークを舞台に描く人間ドラマ。2019 年ベルリン国際映画祭コンペ部門出品作品。原題“The Kindness of Strangers”からもわかるように、ロシア料理店は単なる舞台で、ロシアは筋書きとは無関係です。

【NHK-BSP シネマ放映予定 12月放映推薦作品】（推薦者 真木）

1 : 「砂漠の鬼将軍」(1951年アメリカ) 12月1日(火) 13時～

監督 ヘンリー・ハサウェイ

主演 ジェームズ・メイソン

ヒットラーに背いたドイツ軍の名将ロンメル元帥の生涯を、名匠ヘンリーハサウェイが描く  
歴史映画、戦争映画好きな人向け。

2 : 「愛と青春の旅だち」(1982年アメリカ) 12月2日(水) 13時～

監督 テイラー・ハックフォード

主演 リチャード・ギア、デブラ・ウィンガー、ルイス・ゴセット・ジュニア

母が自殺、父が生活破綻者の家庭で育ったザックの厳しい士官学校生活、ポーラと  
恋が描かれている。

ルイス・ゴセット・ジュニアがアカデミー賞助演男優賞、主題歌「愛と青春の旅だち」がアカ  
デミー歌曲賞をそれぞれ受賞してる。

3 : 「許されざる者」(1992年アメリカ) 12月7日(月) 13時～

監督 クリント・イーストウッド

主演 クリント・イーストウッド、ジーン・ハックマン、モーガン・フリーマン

ロッキー山脈のふもとの町ビッグウイスキーが舞台の西部劇。善悪が明白な従来の西部  
劇とは違い、暴力の本質を見つめ直し、暴力をふるう側と犠牲者の両者の痛みを描い  
て行く人間ドラマとして評価が高い。

アカデミー賞 作品、監督、助演男優賞、編集賞受賞

ゴールデングローブ賞、監督、助演男優賞受賞

キネマ旬報 外国映画 1位(1993年)

4 : 「フラガール」(2006年 日本) 12月7日(月) 21時～

監督 李相日

主演 松雪泰子、豊川悦司、蒼井優、岸部一徳、富司純子

いわき市の常磐ハワイアンセンターの創設から、成功までを実話に基づき  
描いている。

日本アカデミー賞最優秀作品賞、キネマ旬報邦画ベストテン1位

5 : 「クレオパトラ」 (1963年アメリカ) 12月8日 (火) 13時～

監督 ジョーゼフ・L・マンキーウィッツ

主演 エリザベス・テイラー、レックス・ハリソン、リチャード・バートン

エジプト女王クレオパトラとローマのシーザー、アントニーとの恋がある歴史大作。  
アカデミー賞に9部門ノミネートされたが、授賞は技術関連4部門にとどまった。

6 : 「プリティ ウーマン」 (1990年アメリカ) 12月9日 (水) 13時～

監督 ゲイリー・マーシャル

主演 リチャード・ギア、ジュリア・ロバーツ

実業家と娼婦の恋、ハッピーな気持ちになるシンデレラ物語。  
ジュリア・ロバーツの出世作。

7 : 「万引き家族」 (2018年日本) 12月14日 (月) 13時～

監督 是枝 裕和

主演 リリーフランキー、安藤サクラ、樹木希林

社会の底辺で暮らす柴田家は、少ない給料、年金の他に万引き、ネコババなど小さな  
犯罪に手を染めていた。この柴田家をめぐる様々な出来事が描かれる。

カンヌ国際映画祭で、最高賞であるパルム・ドールを受章。

ゴールデングローブ賞外国語映画賞授賞

アメリカ、ドイツ、英国、その他各国の映画賞を受賞。ただアカデミー賞の受賞はならな  
かった。国内では日本アカデミー賞作品賞をはじめ、12の賞を受賞。

8 : 「羊たちの沈黙」 (1991年アメリカ) 12月14日 (月) 21時～

監督 ジョナサン・デミ

主演 アンソニー・ホプキンス、ジョディ・フォスター

連続殺人事件を追うFBI訓練生とアドバイスをする殺人狂の元精神科医との不思  
議な交流を描く。サイコ スリラーの最高峰。アンソニー・ホプキンスの怪演がひかる。すご  
い作品だが、人間心理の深淵に触れるため、ある種のむなくそ悪さが残る。ジョディ・フォ  
スターが続作品を断ったとも言われている。

アカデミー賞 作品、監督、主演男優賞、主演女優賞、脚色賞受賞

アカデミー賞主要5部門を独占したのは、3作品目である。

キネ旬報外国映画ベストテン2位

9 : 「シンドラのリスト」 (1993年アメリカ) 12月16日 (水) 13時～

監督 スティーブン・スピルバーグ

主演 リアム・ニーソン、ベン・キングスレー、レイフ・ファインズ

アウシュビッツから1200人のユダヤ人を救ったドイツ人実業家である

シンドラの勇気ある行動を描いた作品。人間愛に感動する。

ビリー・ワイルダーなど著名監督から本作品は高い評価を受ける。

アカデミー賞作品、監督、脚色、撮影、編集、美術、作曲の7部門で受賞。

アメリカ映画ベスト100 (2007年) の8位、感動した映画ベスト

100 (2006年) の3位

10 : 「アメリカグラフィティ」 (1973年アメリカ) 12月22日 (火) 13時～

監督 ジョージ・ルーカス

主演 リチャード・ドレフィス、ロン・ハワード

ルーカス監督が、青年期 (1960年代) 過ごしたカリフォルニアを舞台にした青春物

語。1950年～1960年代に流行した曲、41曲が流れ、古のアメリカ音楽フ

アン向け作品。  
ゴールデングローブ作品賞。

11 : 「ゴッドファーザー (①②③)」 (①1972年、②1974年、③1990年)

①12月28日 (月) 21時～

②12月29日 (火) 21時～

③12月30日 (水) 21時～

監督 フランシス・F・コッポラ

主演 マーロン・ブランド、アル・パチーノ、ロバート・デュヴァル

音楽 ニーノ・ロータ

ニューヨーク5大マフィアの1つ「コレオーネファミリー」のドン・コレオーネを主にしたマフ

ィア映画である。親子、親族、主従の強い結びつき、抗争の激しさ、裏切り、非情さに

改めて驚かされる。映画音楽ベスト100 (2005年) 第5位

アカデミー賞 (第1作) 作品、主演男優、脚色賞を受賞

映画監督が選ぶベストテン (2002年) 第2位

アメリカ映画ベスト100 (1998年) 第3位

1 2 : 「マイフェアレディ」 ( 1 9 6 4 年アメリカ) 1 2 月 3 1 日 ( 木) 1 3 時 ~

監督 ジョージ・キューカー

主演 オードリー・ヘップバーン、レックス・ハリソン

原作 「ピグマリオン」 (バーナード・ショー)

ギリシャ神話でピグマリオンが理想の女性を彫刻した。この彫刻に

ピグマリオンは恋をするようになる。アフロディーテ (愛の神) これを哀れに思い、彫刻に命を与える。ピグマリオンはこの女性と結婚する。

言語学者ヒギンズ教授が、街で出会った下品な女性を、話し方をはじめ礼儀を教え超一流のレディに育てる。教授は、この女性に恋する物語。「踊り明かそう」「君住む街角」など名曲も多く、ミュージカル映画の名作。見て楽しい作品である。

アカデミー賞 作品、監督、主演男優、など8部門で受賞。

1 3 : 「ウエストサイド物語」 ( 1 9 6 1 年アメリカ) 1 2 月 3 1 日 ( 木) 1 5 時 5 5 分

監督 ロバート・ワイズ

主演 ナタリー・ウッド、リチャード・ベイマー、ジョージ・チャキリス、リタ・モレノ

「ロミオとジュリエット」を元にしたブロードウェイミュージカルの映画化。

音楽は、著名な NY フィルの指揮者であるレナード・バーンスタインが担当。

「トゥナイト」「マリア」など有名な曲が多く、ミュージカル映画の代表作。

必見の作品である。

アカデミー賞 作品、監督、その他部門を合わせて9部門受賞。

アメリカ映画ベスト100 (1998年) で41位、ミュージカル映画ベスト100 (2006年) で第2位である。



【名画座作品情報 12月】（情報提供：本田、真木）

1. 「**中国を知る映画祭**」(12.12～12.18 渋谷ユーロスペース) 映画を通じて中国や日中関係を見つめ直し、さらに台湾、香港にも目を向けた映画祭。幅広い視点からの作品が15本並びます。「戦う兵隊」(1939 亀井文夫監督)、「未完の対局」(1982 佐藤純彌監督 日中合作)、「珈琲時光」(2004 侯孝賢監督)、「乱世備忘 僕らの雨傘運動」(2016 陳梓恒監督)ほか多彩です。

2. 「**フェアウェル**」(～12.11 横浜ジャック&ベティ) ルル・ワン監督・脚本。祖国を離れて暮らしていた親戚一同が、末期がんで余命わずかな祖母のために帰郷、それぞれが祖母のためを思うことによって巻き起こる騒動をハートフルに描きます。10.2 に一般公開され好評を博しました。見逃した方はこの機会にどうぞ。

同様に、1.17 公開された「**オリ・マキの人生で最も幸せな日**」(12.5～12.11 1週間限定)

もリバイバル上映されます。プロボクサーがアメリカ人チャンピオンと戦うタイトル戦前に、恋に落ちます。フィンランド発の愛と喜びの実話です。

3. 「**Mank/マンク**」(11.20～ ヒューマントラスト有楽町、Kino cinema MM)

オーソン・ウェルズ監督・主演の名作「市民ケーン」でアカデミー賞脚本賞を受賞した脚本家“マンク”ことハーマン・J・マンキーウイツツの物語。アルコール依存症に苦しみながら機知と風刺に富んだ脚本を書きました。デビッド・フィンチャー監督、ゲイリー・オールドマン、アマンダ・セイフライド。

4. 「**燃ゆる女の肖像**」(12.4～ Bunkamura ル・シネマ、Kino cinema MM)

18世紀、フランス・ブルターニュの孤島を舞台に、望まぬ結婚を控える貴族の娘と彼女の肖像を描く女性画家のひとときの恋を描く愛の物語。セリーヌ・シアマ監督、アデル・エネル。

5. 「**ノッティングヒルの洋菓子店**」(12.4～ HT有楽町、新宿武蔵野館、Kino cinema MM) エリザ・シュローダー監督、セリア・イムリー、シャノン・ターベット。

ノッティングヒルに開店した洋菓子店を舞台に描く3世代に亘る女性達の物語。絶品のスイーツ満載。

6. 「**無頼**」(12.12～ 新宿K's cinema、横浜ジャック&ベティ) 井筒和幸監督 8年ぶりの作品。松本利夫、柳ゆり葉、中村達也、ラサール石井。5.16 公開予定が

コロナのため変更されました。あぶれ者たちの群像劇。もう一つの昭和史。はみ出し者を冷徹かつ共感に満ちた視線で描いてきた監督の集大成と銘打っています。主題歌は泉谷しげる。

7. 「**また、あなたとブッククラブで**」(12.18～ HT有楽町、HT渋谷、Kino cinemaMM) ビル・ホルダーマン監督、ダイアン・キートン、ジエーン・フォンダ、キャンディス・バーゲン、メアリー・ステーンバージェン、若き頃憧れた美女スターがまだ頑張っています。それぞれ境遇の違いはあるが、長年の友人である4人の女性が人生の後半の悩みと楽しみをブッククラブでの読書会で語り合います。テキストの官能小説から色づきます。

8. 「**AWAKU**」(12.25～ 新宿武蔵野館) 山田篤宏監督、吉沢亮、若葉竜也、落合モトキ、馬場ふみか。天才棋士に敗れ、冴えない大学生活を送っていたある日、ふとしたことで出会ったAI将棋のプログラミングに新たな夢を見出し、かつてのライバルと再挑戦を果たします。

9. 「**ホモ・サピエンスの涙**」(11.20～ HT有楽町)ロイ・アンダーソン (スウェーデン) 監督マッティン・サーネル他、33シーンをワンシーンワンカットで撮影し、独特のナレーションが物語へ誘う。信じるものを失った牧師、戦禍に見舞われた街、愛に出合う青年悲しみは永く続かない。人類には愛があり希望があるから、悲劇に負けず生きていける。そのようなメッセージ伝わってくる。ヴェネチア国際映画祭最優秀監督賞授賞

10. 「**声優夫婦の甘くない生活**」(12.18～ HT有楽町、新宿武蔵野館) イスラエル、エフゲニー・ルーマン監督。洋画吹き替え声優夫婦の人生の再スタートを描く。ユーモラスで心温まる作品です。「鉄のカーテン」崩壊後に、よりよい生活を願って海を渡ったロシア系ユダヤ人達の生きざまを描いています。作中にはハリウッドの名作が登場します。

# 映画同好会予定表

## \* 12月24日 15時～17時

### 映画同好会 第5回 ZOOM 会

会員の方は、どなたでも参加できるよう、全員のメルアドに前日 URL を配信します。  
テーマは、前述 NHK-BSP シネマ推薦作品 13 本のうち、ZOOM 会当日までに放映された映画を対象に、皆さんがご覧になった作品について感想をお話しいたきます。

## \* 12月2日 忘年会

大変残念ですが、コロナ禍が収束しない中での会員多数でのリアル会は、感染防止の観点から本年度は中止させていただきます。

## 編集後記

先月号の編集後記では、トランプ氏再選という編集子の予想を披露しましたが、ほぼバイデン氏が大統領に当選することで決定のようです。（12月14日の選挙人投票、1月6日の開票を経て最終決定となります） 今月は編集子の編集後記を控え、代わりに DF 月

報に掲載される映画同好会石毛謙一さんの「映画から歴史を学ぶー中国近代史」をご紹介します。

以下、DF 月報転載承認済み DF Web サイト・「映画同好会」URL

([http://www.directforce.org/DF\\_club2015/eiga/index.html](http://www.directforce.org/DF_club2015/eiga/index.html))



2020/12/01 (No.330)

映画から歴史を学ぶ — 中国近現代史

石毛 謙一

21 ある DF 同好会のうち映画同好会に入会させて頂いたのが 4 年前、最初の鑑賞作品が〈シンドラーのリスト〉でした（1993 年公開、ステーヴン・スピルバーグ監督、オスカーシンドラーの命のリスト）。この映画をきっかけに、人それぞれの鑑賞方法があることに気が付き、再度ナチスドイツの黒い歴史を考えられました。



私の場合は、表題の通りに映画を見ている事が、意外に多い。歴史を学ぶ方法は、体験、体験談、授業、年表、小説、映画となるが、体験や映像情報が、一番強烈な学びになります。特に、歴史のジャンルは限定していないが、強烈な自己体験があった中国の近現代史を、今回は振り返ってみたい。習近平政権の今後を占う意味でも検討の価値があると思います。年表（「[中国近現代史年表](#)」）を参考用に作成し、小説（映像化期待有）と映画が描いた時代を検証する事とします。自己体験は、文化大革命によるリンチ傷痕、下放生活談、高学歴者に対する処遇等になりますが、文革評価は、未だ現政権批判に繋がるとされており、小説や映画も含め非常に少ない。但し、少ない中で発表された映画、小説は、インパクトが非常に大きいと思います。

1984年8月に初めて、香港中国を訪問しました。550KV 電力用開閉機器の国産化事業です。壮大な電力網を建設する為、一番重要な機器の国産化（5年間で100%）が国家命令でした。技術移転先は、西安機械電力公司。競合は、シーメンス、日立。約1年後、何故か、三菱電機が受注しました（5年間で、国産化は無理と断ったにも拘わらず）。工場の方々との交流の中で、文化大革命の悲惨さを見てしまいました。1970年代の日本のマスコミの賛美とは、全く異なる情景であり、空想的な論調に怒りを覚えました。その後、上海宝山製鉄の建設工事で、新日本製鉄の方々とも仕事をしましたが、1990年代の為か、文革の件は、話題になりませんでした。



「シンドラーのリスト」「慕情」「ラストエンペラー」

「慕情」名場面にあわせて主題曲が聞ける YouTube を貼った DF 月報は下記 URL より  
[http://www.directforce.org/DF2013/04\\_salon/essay-2020/essay-330-san2.html](http://www.directforce.org/DF2013/04_salon/essay-2020/essay-330-san2.html)

1955 年公開米国制作〈慕情〉は、ベルギー人と中国人の血を引くハン・スーインの自伝をもとに映画化されたもの。甘美な音楽は、あまりにも有名ですが、単なる悲恋物語とみるべきではない。舞台は、1949 年英国領香港から始まる。ハン・スーイン（ジェニファー・ジョーンズ）は、国民党の將軍の妻だったが、夫は共産軍との戦いで戦死。女医として、内戦難民相手に激務をこなす。米人記者（ウィリアム・ホールデン）と恋に落ちるが、彼は、朝鮮戦争取材時に戦死。途中一族に会いに重慶を訪問するが、二人の未来は中国にはないと形見を渡される。歴史的ポイントは、1946 年に始まる国共第 2 次内戦、1949 年中華人民共和国成立、1950 年朝鮮戦争勃発、1952 年休戦協定。そして、この間の英国植民地香港の置かれた立場が描かれています。アカデミー賞歌曲賞受賞。

1988 年公開伊英中国仏米合作〈ラストエンペラー〉は、愛新覺羅溥儀の生涯を描く。原作は、溥儀の〈我が半生〉。清朝 12 代にして、最後の皇帝。1906 年北京生、1967 年死去。歴史的ポイントは、1911 年清朝滅亡、中華民国成立、軍閥混戦。1932 年満州国成立。皇帝溥儀。1945 年日本降伏、東京裁判、ソ連抑留、撫順収容所。本来戦犯で死刑になるところを、ソ連に拘束され、逆に命は救われた（中国によるスターリン大粛清批判か）。収容所での模範的な態度の為か、文化大革命では、一市民として遇される不思議さがある（周恩来の保護政策有か）。溥儀（ジョン・ローン）は、1924 年の北京政変まで紫禁城に住まうが、その時の家庭教師（レジナルド・ジョンストーン役）にピーター・オートゥールが何か投入されている。壮大な紫禁城の撮影は、中国政府の全面的な協力があつたとの事。アカデミー賞 9 部門を受賞する程、評価が高い。



〈大地の子〉、山崎豊子の小説。8年かかり、1991年出版。胡耀邦国家主席のバックアップを幸いにも得た為、作品完成。TV映画は、日中合作で、4年かけ1995年放映。全7回で10時間50分の大作。中国側からは、内政問題ではなく、父と子の物語であることを条件付けられた。歴史的ポイントは、中国残留孤児、文化大革命、上海宝山鋼鉄建設。文化庁芸術作品賞、モンテカルロ国際テレビ賞最優秀作品賞受賞。



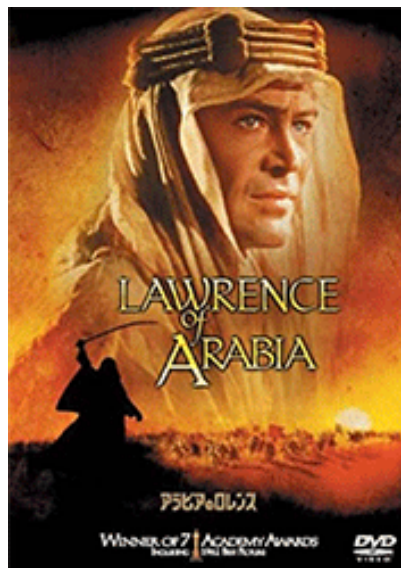
〈ワイルドスワン〉1991年初版。日本語訳は、1993年になる。中国人女性作家ユンチアンの自伝。全世界で1000万部を超えるベストセラー。但し、中国では発禁処分。

祖母、母、自分自身の三代記。祖母は、1924年、15歳で軍閥将軍の妾になる。母は、満州国で生まれ、共産党で昇進するも、反右派闘争で処分され、また復権。自身は、14歳で紅衛兵を

体験後、農民として働く。多くの職業を経て、四川大学講師となる。1978年英国留学。  
歴史的なポイントは、1924年から1978年までとなり、文化大革命の終焉までの物語。年表上のすべてに関連する。満州国への批判、文化大革命の惨めさ、毛沢東への批判を記す。



〈中国の赤い星〉1937年初版。エドガー・スノー著 中国共産党の長征直後のルポルタージュ。特に、毛沢東に関する記事は、本人も少年青年時代を語らなかつた為、一級の資料になっている。当時の欧米の中国共産党に対する理解と共感に溢れている。日本に対しては、日中戦争中の為、厳しく批判をしている。



以上、中国近現代史を理解する為の重要な映画と小説を少し紹介してきました。ピーター・オトワール主演の〈アラビアのロレンス〉（1962年公開、1988年再編集）も、現代の中東の混乱を



暗示している映画になっています。歴史に置き去りにされる事もなく、絶えず現在に影響を与え続けるものこそ、これらは傑作映画と言えると思います。

中国の歴史は、立場によって、時代で共感と否定が感じられると思いますが、真に歴史を学び、現在の習近平時代の将来を想定して、隣人として対処していくべきだと思います。小説や映像が自由に発表出来る体制を大切にしていきたいと改めて思う日々です。

いしげ けんいち (1126) 技術部会 環境部会 映画同好会 ワイン同好会  
元三菱電機 現兼松コミュニケーションズ

### 中国近現代史年表(自作)

今回の映画と歴史のエッセイに関する年表を作成しました。

- 1842年・1860年・1898年 南京条約、北京条約、新界租借にて現香港が英国領
- 1911年 清朝滅亡、中華民国成立(孫文)軍閥混戦
- 1927年 蔣介石国民党政府中国統一
- 1932年 満州国成立、皇帝溥儀
- 1934年 長征、中国共産党延安へ
- 1937年 国共合作
- 1945年 日本降伏
- 1946年 国共内戦開始
- 1949年 中華人民共和国成立、蔣介石国民党は台湾へ
- 1950年 朝鮮戦争始まる\*逃港者急増(反社会主義、大躍進政策失敗、文化大革命忌避)
- 1952年 朝鮮戦争休戦
- 1956年 百花斉放政策
- 1958年 大躍進運動開始(数千万人の餓死者、毛沢東の失敗)
- 1960年 中ソ論争—レーニン主義万歳
- 1966年 文化大革命始まる(毛沢東の復権)
- 1969年 珍宝島事件—中ソ国境紛争
- 1972年 日中国交正常化

- 1976年 毛沢東死去、四人組逮捕  
1977年 上海宝山鋼鉄設立  
1978年 鄧小平、改革開放。日中平和友好条約締結  
1979年 米中国交樹立  
1981年 <建国以来の党の若干の歴史的問題に関する決議>  
1980年代 改革開放政策が本格的に開始  
1985年 上海宝山鋼鉄 1号高炉火入れ  
1989年 天安門事件（民主化運動弾圧）  
1997年 香港主権は、中華人民共和国（大英帝国の終焉）  
但し、2047年までは、一国両制保証（鄧小平）

キネマ月報 2020年12月1日発行（通算第3号）

©DF 映画同好会

発行人：真木郁夫

編集局：菅原信夫

連絡先：[sugahara@directforce.org](mailto:sugahara@directforce.org)